

委員会全体の検討テーマと内容

工程	検討テーマ	内 容		
2011年 8月～10月	整備する施設で資源化・処理するごみ量を決定する。	生ごみ	生ごみ処理機による処理量決定等	
		容器包装プラスチック	プラスチック分別収集量	
		焼却量	焼却する量	
		資源化量	缶、ビン、古紙、不燃物、粗大ごみ等の資源化・処理量	
	資源化・処理する施設での施設規模を決定する。	エネルギー回収推進施設		
		資源化施設	不燃粗大ごみ処理施設	
			ビン・缶資源化施設	
			プラスチック(容器包装)圧縮施設	
			トレイ・ペットボトル等圧縮施設	
		ごみメタン化施設		

整備基本計画専門部会の検討テーマと内容

具体の「施設内容の検討をする」ための調査を行う。

工程	検討テーマ	内 容	
2011年10月 ～2012年2月	エネルギー回収推進施設の整備基本計画	①処理方式の検討 ②計画ごみ質の設定 ③系列の検討(2系列か3系列) ④発電効率の検討 ⑤余熱利用施設規模、内容の検討 ⑥排ガス処理方式の検討	焼却施設(ストーカ炉・流動床炉)
			ガス化溶融炉(キルンガス化溶融炉・流動床ガス化溶融炉・シャフト炉ガス化溶融炉)
2012年 3月～5月	資源化施設の整備基本計画	①破砕機の機種選定 ②ビン・缶資源化施設 ③プラスチック(容器包装)圧縮施設 ④トレイ・ペットボトル等圧縮施設	高速回転破砕機、横型高速回転破砕機
			ビン自動色選別
			圧縮施設の安全性
2012年 6月～9月	ごみメタン化施設の整備基本計画	①処理方式の検討 ②計画ごみ質の設定 ③系列の検討(2系列か3系列) ④メタンガス発生量 ⑤メタンガス有効利用方法検討 ⑥発酵残渣、液肥の処理方法、有効利用方法	湿式・乾式
2012年 10月～12月	運営計画を決定する。	①整備手法 ②財源計画 ③整備工程 ④その他	
2012年 10月～12月	整備基本計画素案を作成する。		
2012年12月 ～2013年2月	整備基本計画最終案を決定する。	①基本計画の取り纏め ②パブリックコメント内容検討 ③その他	

建設候補地選定専門部会の検討テーマと内容

市内全域から候補地となる土地の選定を行う。

工程	検討テーマ	内 容	
2011年 8月～10月	選定ルールを検討を行う。	(1)選定の基本的な考え方の検討	
		(2)スクリーニングの検討内容の検討	1次選定・2次選定・3次選定
		(3)関連して取り扱う事項に関する説明	①環境アセス、②環境・景観保全、③まちづくりとの整合等について、検討のレベルを周知
2011年 10月～11月	1次選定を行い、候補地を選定する。	(1)一次スクリーニング:法規制等より施設整備が困難と判断される地域を決定する。	①法的制約条件 ・災害時にリスクの高いエリアの除外 ・自然保護、鳥獣保護に関する規制エリアの除外 ・文化財保護等に関する規制エリアの除外 ・農業地域、森林地域における規制エリアの除外 ②災害・環境に対する安全性 ・活断層を避ける ・水道水源の取水範囲を避ける等
		(2)候補地選定後、実際の施設の建設までに実施する「環境アセスメント」について、情報を共有化する。	「環境アセスメント」についてのミニ勉強会
2011年12月 ～2012年1月	2次選定を行い、候補地を数箇所選定する。	(1)候補地選定に平行し、施設建設時に必要な対策等をまちづくりの観点から考え、情報を共有化する。	「環境・景観の配慮事項」と「施設の付帯機能(環境学習機能等)」についてのミニ勉強会
		(2)二次スクリーニング:様々な条件の組み合わせを試行錯誤に検討し、望ましいと考えられるエリアの抽出を行う。	③物理的制約条件 ・各種施設を理想的に配置するための敷地面積の確保 ④周辺土地利用との整合 ・土地利用との整合の考え方を議論、整理 ⑤収集・運搬の効率 ・道路からの距離や町田市全体での位置等を考慮 ⑥地形・地質条件 ・土地勾配など、建設する場合の条件を考慮 ⑦用地取得の可能性 ・市有地の活用可能性について考慮 ⑧余熱等利用計画、都市発展及び関連施設との関係 ・利用施設からの距離を考慮
2012年 1月～2月	候補地の現地調査を行う。	現地視察、確認	これまでに議論、整理してきた選定の考え方を現地にて確認
2012年 3月	候補地を決定する。	個別評価	評価項目を設定し、候補地毎に評価
		定量評価	評価項目の重みづけ(AHP法等)
2012年5月～ 2013年2月	周辺環境への配慮・方策	施設周辺の整備の方向性について、詳細を詰める事項を確認、整理	①環境アセスの留意事項 ②環境・景観の配慮事項 ③施設の付帯機能(環境学習機能等)